

よし お
藤 森 彦 男 校 長

新城地方教育百年史より

旧吉田藩士，安政4年(1857)生まれ。明治20年創立以来，明治33年3月まで学
校長として在職。明治33年4月より41年1月まで豊橋市八町高等小学校長。明治
41年死去，52歳。豊橋市東田全久院に頌徳碑あり。

忠君愛国主義の教育に熱心だった。収穫したさつまいもを，校長自ら荷車を引いて
軍艦に贈り，わらじを作って恤兵部じゅっぺいに献じ，あるいはソバ粉を作って**第18連隊**
贈ったという。言葉だけでなく，身をもって生徒と共に実践したところに，同校長の
本領があったようである。

寄宿舎制度は，軍人の意見を入れて，生徒隊組織とした。寄宿する生徒は，それぞ
れの分隊に属する。1分隊が12畳の部屋で，6部隊あった。同校**寄宿舎規則**には次
のような条項があった。

「ほしいままに他の分隊に起臥きがするを許さず」「分隊学友は分隊長の指揮に従い，決
して抵抗するを得ず」「正課の前後は分隊内において専心学業に従事すべし」

また，生徒は舎内では現金を所持できなかった。校長に預けておき，購入したい物
品があるときは，漆塗りの木札に品名・量・代金を記載して提出し，許可を受ける。
渡帳に自記して現金を受け取った。帰省には，帰省願いを提出したが，校長の出納控
えと，自分の出納控えが合わないと帰省の許しが出なかった。**食事は交代で自炊**した。

<愛知教育会雑誌より>

君意を精神教育と実業教育とに鋭ふし，西村博士，東久世伯，福島伯，佐藤少将等に
私淑ししゅくする所ありて一家風をなし，又精神的鍛錬のためには天野大尉の注意を入れて，寄
宿制を兵營的の組織となし，かつ勉めて勤労規律等の習慣を養成す。

名声籍甚，校運益隆盛，君の徳風は郡外に溢れて東三の諸郡より西遠の諸村にまで及
び，化を慕いて入舎来学するもの益多し。小学校として天下比類稀なる所なるべし。

<柿原明十 八名高等小学校を偲ぶの記より>

明治20年から明治33年まで，いわゆる名校長藤森彦男先生が，献身的の教育指導
で成績大いに上がり，ために校風を慕うて来たり学ぶ者年毎に多きを加え，郡内は申す
に及ばず，南設楽郡，北設楽郡，宝飯郡，渥美郡を初めとし，名古屋地方より遠州方面
に亘り，笈きゅうを負うて蝟集いしゅうし，東参に一大学園を出現せしめた。加うるに此校の付属校
舎として精神的にも完備した寄宿舎の設備があつて，是等遠来の学徒はほとんど全部を
入舎せしめ，その全盛時代には舎生70余名を算した。